

花見に想う - グループからチームへ

春、花見の季節。国際耕種では、毎年筑波の海外研修員や社外の人たちを招待して、満開の桜の下でバーベキュー・パーティーを行うことが恒例となっている。この花見では、バーベキューの準備や実施、あと片づけ等々、研修員たちが分担し、できるだけ彼等自身が主体的に進められるように、指導員としても何時もの実習とは違った関わり方を心掛けている。

研修員の主体性と言っても彼等にとっては初めての事なので、何をどうするの、何から用意するの等、集まったグループメンバーは暫く食材を眺め自国の肉とどう違うなどがガヤガヤやっているだけで準備は進まない。道具や皿の準備や定番のトマトとタマネギみじん切りサラダの作り方、キムチ味のキャベツサラダに実習で使ったステンレスボールを用いる事や肉の味付けにビニール袋を用いたりすることなどをちょっとやって見せ、後はよろしくと言って彼等に任せるようにしている。

彼等は『野菜栽培研修コース』に参加している一つのグループである。このような単なる人の集まりである「グループ」に対して、「チーム」は共同で仕事や作業をする人の集まり、とすることができる。「チーム」としての共通目標のもと

に、それぞれのチームメンバーの役割が設定され、それぞれがその役割を果たすことによって、目標が達成される。そうした達成感の共有はチームメンバー間の信頼と結束力を強化することにもつながる。

とは言うものの、もともとそんなだいそれたことを考えてバーベキューを始めたわけでもない。本来、きれいな桜をながめながら、みんなで楽しく食べたり飲んだりできれば、という季節の楽しみである。しかし、こうしたバーベキューのような共同作業を一緒にやるのが、「グループ」から「チーム」へ、そして互いに協力し助け合って一つのことを達成する「共創」の考え方につながる。さらには、バーベキューをよりよくするための「段取り(準備)」の重要性を学ぶ機会にもなる。多分に後付けの考えではあるが、なかなか核心をついているのかもしれない。

またバーベキューを通して、各研修員の素顔や、意外なキャラクターがわかってくることもある。10ヶ月間におよぶ長丁場の『野菜栽培研修コース』では、こうしたバーベキューの機会は何回かあるが、こうしたイベントが相互理解やよりよいチーム作りにつながれば、仕掛け人としてもうれしい限りである。

満開の桜の下で集合写真



踊る研修員達



あなた焼く人、
わたし食べる人…

